

果樹類－核果類－小粒核果類－殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2022/11/1

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名								
						灰星病	黒星病	すす斑病	すす斑病(うめ)	黒粒枝枯病	環紋葉枯病	葉炭疽病	灰色かび病	灰星病(すもも)
1	アフエットフロアブル		普	ベンチオピラド	7	○	○	-	-	-	-	-	-	-
2	オーソサイド水和剤80		普	キャプタン	M4	-	○	○	-	-	-	-	-	-
3	トップジンM水和剤		普	チオファネートメチル	1	○	○	-	-	○	○	○	-	-
4	ネクスターフロアブル		普	イソピラザム	7	-	○	-	-	-	-	-	-	-
5	パレード15フロアブル		普	ピラジフルミド	7	-	○	-	○	-	-	-	○	○
6	フルーツセイバー		普	ベンチオピラド	7	○	○	-	-	-	○	-	-	-

果樹類－核果類－小粒核果類(うめ、すももを除く)－殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2022/11/1

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名				
						環紋葉枯病	黒星病	すす斑病	灰色かび病	灰星病
1	ストロビードライフロアブル		普	クレソキシムメチル	11	○	-	-	-	-
2	ナリアWDG		普	1.ピラクロストロピン 2.ボスカリド	11、7	-	○	-	-	○
3	ベルコート水和剤		普	イミノクタジン	M7	○	○	○	○	○

果樹類－核果類－小粒核果類(うめを除く)－殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2022/11/1

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名			
						灰星病	灰色かび病	黒星病	白紋羽病
1	オーシャインフロアブル		普	オキシポコナゾールフマル酸塩	3	○	-	-	-
2	オーシャイン水和剤		普	オキシポコナゾールフマル酸塩	3	○	○	○	-
3	オンリーワンフロアブル		普	テブコナゾール	3	○	-	○	-
4	ファンタジスタ顆粒水和剤		普	ピリベンカルブ	11	○	-	○	-
5	フロンサイドSC		普	フルアジナム	29	-	-	-	○

果樹類－核果類－小粒核果類(すももを除く)－殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2022/11/1

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名		
						かいよう病	黒星病	灰星病
1	スターナ水和剤		普	オキシリニック酸	31	○	-	-
2	フリントフロアブル25		普	トリフロキシストロピン	11	-	-	○

果樹類－核果類－小粒核果類(うめ、すももを除く)－殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2022/11/1

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名		
						キクイムシ類	コスカシバ	カクミキアカツヤ
1	ガットキラー乳剤		普	MEP	1B	○	○	-
2	モスピラン顆粒水溶剤	抑制	劇	アセタミプリド	4A	-	-	○

果樹類－核果類－小粒核果類(うめを除く)－殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2022/11/1

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名		
						アブラムシ類	ケムシ類	カクミキアカツヤ
1	アクタラ顆粒水溶剤	抑制	普	チアメトキサム	4A	○	-	○
2	オリオン水和剤40		劇	アラニカルブ	1A	○	○	○

果樹類－核果類－小粒核果類(すももを除く)－殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2022/11/1

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名			
						アブラムシ類	アメリカシロヒトリ	ハマキムシ類	シンクイムシ類
1	ダイアジノン水和剤34		劇	ダイアジノン	1B	○	○	○	○

果樹類－核果類－小粒核果類－うめ－殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2022/11/1

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名							
						かいよう病	すす斑病	黒星病	灰色かび病	灰星病	うどんこ病	環紋葉枯病	白紋羽病
1	ICボルドー66D		普	銅	M1	○	-	-	-	-	-	-	-
2	Zボルドー		普	銅	M1	○	-	-	-	-	-	-	-
3	アミスター10フロアブル		普	アゾキシストロビン	11	-	○	○	-	-	-	-	-
4	インダーフロアブル		普	フェンブコナゾール	3	-	○	○	-	-	-	-	-
5	オーシャイン水和剤		普	オキシポコナゾール フルマル酸塩	3	-	○	○	○	○	-	-	-
6	オンリーワンフロアブル		普	テブコナゾール	3	-	○	○	-	○	-	-	-
7	カスミン液剤		普	カスガマイシン	24	○	-	-	-	-	-	-	-
8	サルファーゾル		普	硫黄	M2	-	-	○	-	-	-	-	-
9	スコア顆粒水和剤		普	ジフェノコナゾール	3	-	○	○	-	-	-	-	-
10	ストロビードライフロアブル		普	クレソキシムメチル	11	-	○	○	○	-	○	○	-
11	デランフロアブル		劇	ジチアノン	M9	-	○	○	-	-	-	-	-
12	ナリアWDG		普	1.ピラクロストロビン 2.ボスカリド	11、7	-	○	○	○	○	○	○	-
13	バッチレート		普	有機銅	M1	-	-	-	-	-	-	-	○
14	バリダシン液剤5		普	バリダマイシン	U18	○	-	-	-	-	-	-	-
15	ファンタジスタ顆粒水和剤		普	ピリペンカルブ	11	-	○	○	○	○	-	-	-
16	フジワン粒剤		普	イソプロチオラン	6	-	-	-	-	-	-	○	-
17	フロンサイドSC		普	フルアジナム	29	-	-	○	○	-	-	-	○
18	ベルコートフロアブル		普	イミノクタジン	M7	-	○	○	○	-	-	-	-
19	ペンコゼブフロアブル		普	マンゼブ	M3	○	○	○	-	-	-	-	-
20	マイコシールド		普	オキシテトラサイクリン	41	○	-	-	-	-	-	-	-
21	ロブラール水和剤		普	イプロジオン	2	-	-	-	○	-	-	○	-

果樹類－核果類－小粒核果類－うめ－殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2022/11/1

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病虫害雑草名										
						アブラムシ類	カメムシ類	カイガラムシ類 幼虫	ケムシ類	キクイムシ類	コスカシバ	カイガラムシ類	アメリカシロヒトリ	ハマキムシ類	クビアカツヤカミキリ	カミキリムシ類
1	アクセルフロアブル	抑制	普	メタフルミゾン	22B	-	-	-	○	-	-	-	-	-	○	-
2	アクタラ顆粒水溶剤	抑制	普	チアメトキサム	4A	○	○	-	-	-	-	-	-	-	○	-
3	アドマイヤー顆粒水和剤		劇	イミダクロプリド	4A	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4	アブロードフロアブル		普	ブプロフェジン	16	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-
5	アブロード水和剤		普	ブプロフェジン	16	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-
6	オリオン水和剤40		劇	アラニカルブ	1A	○	-	-	○	-	-	-	-	-	○	-
7	ガットキラー乳剤		普	MEP	1B	-	-	-	-	○	○	-	-	-	-	-
8	サムコルフロアブル10	抑制	普	クロラントラニリブ ロール	28	-	-	-	○	-	○	-	-	○	-	-
9	スミチオン乳剤		普	MEP	1B	○	-	-	-	-	-	-	○	○	○	-
10	ダントツ水溶剤	抑制	普	クロチアニジン	4A	○	○	-	○	-	-	-	-	-	○	-
11	トランスフォームフロアブル		普	スルホキサフロル	4C	○	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-
12	バリアード顆粒水和剤	抑制	劇	チアクロプリド	4A	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
13	モスピラン顆粒水溶剤	抑制	劇	アセタミプリド	4A	○	-	-	-	-	-	○	-	-	○	-
14	ラビキラー乳剤		劇	1. MEP 2. PAP	1B、1B	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-
15	ロビンフッド		普	フェンプロパトリン	3A	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○

*うめにおけるアドマイヤー顆粒水和剤の使用時期は、ただし書きに注意；(ただし、露地栽培については発芽期から開花期を除く)。

6-(9) うめ (果樹類、核果類、小粒核果類、落葉果樹に登録のある農薬も使用可能)

病害虫名	防除方法	参考事項
黒星病	休眠期 (落葉後～開花前、12～3月) <ul style="list-style-type: none"> ・伝染源である枝上病斑を剪除し処分する。 生育期 (落花後～収穫前) <ul style="list-style-type: none"> ・4月上旬～5月上旬の感染最盛期の防除を徹底する。 ・開花以降が多雨の年は多発するので十分防除する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・病原菌は枝病斑で越冬する。 ・果実での潜伏期間は約30日と長い。 ・オーソサイド水和剤80は、高温時(30℃前後)の散布は葉害が生じることがあるので注意する。 ・DMI剤、QoI剤を連用すると、耐性菌の出現する恐れがあるので注意する。
かいよう病	休眠期 <ul style="list-style-type: none"> ・越冬病斑を剪除する。 ・無機銅剤を10月上旬から2週間間隔で2回散布すると潜伏越冬枝病斑を少なくできる。ただし、高温期の散布は落葉の危険性があるので注意する。 生育期 (葉芽発芽前、発芽～幼果期) <ul style="list-style-type: none"> ・発芽から幼果期の防除を徹底する。 ・風当たりを防ぐため、防風ネットや防風垣を設置する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・病原菌は枝や皮目落葉痕で越冬する。 ・強風雨が感染を助長する。 ・小梅は発生しやすい。 ・同一の抗生物質剤を連用すると、耐性菌の出現する恐れがあるので注意する。
灰色かび病	生育期 (落花終期 (8分散り)～葉芽発芽前) <ul style="list-style-type: none"> ・常発園では落弁終了期にジカルボキシイミド系剤を散布する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・低温で開花時期の遅れる年に発病が多い。 ・進展型は、病斑が拡大し落果する。停止型は、カサブタ状病斑となり、果実は収穫期まで樹上に残存する。
すす斑病	生育期 (3月下旬～6月) <ul style="list-style-type: none"> ・園内の通風、排水をよくする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・QoI剤の薬剤を連用すると、耐性菌の出現する恐れがあるので注意する。 ・5～6月に降雨が多い場合や、収穫期の遅い品種や地域で被害が多い。
環紋葉枯病	生育期 <ul style="list-style-type: none"> ・園の通風をよくする。 ・被害葉は伝染源となるので集めて処分する。 ・低温多雨の年には収穫直後～9月にジカルボキシイミド系剤等で防除する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・病原菌は落葉で越冬する。 ・6～10月二次感染を繰り返す。 ・ジカルボキシイミド系、QoI剤を連用すると、耐性菌の出現する恐れがあるので注意する。
紋羽病		※共通病害虫防除対策の部()紋羽病の防除対策を参照
カイガラムシ類	生育期 (5月上中旬、7月) <ul style="list-style-type: none"> ・生育期の防除は、幼虫最多寄生期に散布する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼虫発生は、ウメシロカイガラムシは年2～3回(5,7,8月)、タマカタカイガラムシは年1回(5月)。 ・カイガラムシの寄生した部分には、こうやく病が発病しやすい。
アブラムシ類	生育期 (新葉展開期、4～5月) <ul style="list-style-type: none"> ・発芽初期、葉が巻く前での初期防除に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・若木や新梢伸長が良い樹で発生が多い。 ・乾燥する年に発生が多くなる。
コスカシバ	休眠期 (12～4月) <ul style="list-style-type: none"> ・食入幼虫の捕殺に努める。 ・幼虫捕殺後の傷口には、癒合促進のため殺菌塗布剤を塗って保護する。 生育期 <ul style="list-style-type: none"> ・フェロモン剤を集団設置する。 ・薬剤散布は秋期防除の効果が高い。 ・薬剤散布は枝幹にも散布する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・成虫の発生盛期は8～9月である。 ・一度被害を受け樹勢が低下した樹は再被害を受けやすい。

各論作成日:2022年11月1日 必ずラベルを確認してから農薬を使用してください。

病害虫名	防除方法	参考事項
クビアカツヤカミキリ	4月～10月 農薬散布は樹幹部にも丁寧に散布する。 5月中旬～10月下旬 食入孔からフラスが出ている場合、針金等で刺殺するか、登録農薬を食入孔に噴射する。 6月上旬～8月上旬 成虫を発見したら捕殺する。	・拡散防止対策として、羽化期（6月～8月）にフラスの見られた樹の幹にネット（目開き4mm以下）を巻き付ける。 ※共通病害虫防除対策の部（27）クビアカツヤカミキリの防除対策を参照
ハダニ類		※共通病害虫防除対策の部（12）ハダニ類の防除対策を参照

果樹類－核果類－小粒核果類－すもも－殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2022/11/1

	農薬の名称	群馬県 指定	製剤 毒性	有効成分の種類	作用機構 分類	病虫害雑草名				
						黒 斑 病	灰 星 病	炭 疽 病	ふ く ろ み 病	黒 星 病
1	ICボルドー412		普	銅	M1	○	-	-	-	-
2	Zボルドー		普	銅	M1	○	-	-	-	-
3	アグリマイシン100		普	1.オキシテトラサイクリン 2.ストレプトマイシン	41、25	○	-	-	-	-
4	アグレプト水和剤		普	ストレプトマイシン	25	○	-	-	-	-
5	インダーフロアブル		普	フェンブコナゾール	3	-	○	-	-	-
6	スコア顆粒水和剤		普	ジフェノコナゾール	3	-	○	-	-	-
7	ストロビードライフロアブル		普	クレソキシムメチル	11	-	-	○	-	-
8	チオノックフロアブル		普	チウラム	M3	-	-	○	○	-
9	トリフミン水和剤		普	トリフルミゾール	3	-	○	-	-	-
10	トレノックスフロアブル		普	チウラム	M3	-	-	○	○	-
11	ナリアWDG		普	1.ピラクロストロピン 2.ポスカリド	11、7	-	○	-	○	○
12	バリダシン液剤5		普	バリダマイシン	U18	○	-	-	-	-
13	フリントフロアブル25		普	トリフロキシストロ ピン	11	-	○	○	-	-
14	ベルコートフロアブル		普	イミノクタジン	M7	-	○	-	-	-
15	マイコシールド		普	オキシテトラサイク リン	41	○	-	-	-	-
16	ロブラール水和剤		普	イプロジオン	2	-	○	-	-	-

果樹類－核果類－小粒核果類－すもも－殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2022/11/1

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名										
						アブラムシ類	シンクイムシ類	カイガラムシ類幼虫	キクイムシ類	コスカシバ	ハダニ類	カメムシ類	モモノゴマダラノメイガ	クビアカツヤカミキリ	オウトウハダニ	
1	アディオフロアブル	抑制	普	ペルメトリン	3A	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2	アドマイヤー顆粒水和剤		劇	イミダクロプリド	4A	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3	アブロード水和剤		普	ブプロフェジン	16	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-
4	エクシレルSE	抑制	普	シアントラニリプロール	28	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5	ガットキラー乳剤		普	MEP	1B	-	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-
6	カネマイトフロアブル		普	アセキノシル	20B	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-
7	サイアノックス水和剤		普	CYAP	1B	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
8	サムコルフロアブル10	抑制	普	クロラントラニリプロール	28	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
9	スカウトフロアブル	抑制	劇	トラロメトリン	3A	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
10	ダイアジノン水和剤34		劇	ダイアジノン	1B	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
11	ダントツ水溶剤	抑制	普	クロチアニジン	4A	○	-	-	-	-	-	○	-	○	-	-
12	ディアナWDG		普	スピネトラム	5	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
13	トラサイドA乳剤		普	1. MEP 2. マラソン	1B、1B	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-
14	トランスフォームフロアブル		普	スルホキサフロル	4C	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
15	バリアード顆粒水和剤	抑制	劇	チアクロプリド	4A	○	○	-	-	-	-	-	○	-	-	-
16	フェニックスフロアブル	抑制	普	フルベンジアミド	28	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-
17	モスピラン顆粒水溶剤	抑制	劇	アセタミプリド	4A	○	○	-	-	-	-	-	-	○	-	-

* すももにおけるアドマイヤー顆粒水和剤の使用時期は、ただし書きに注意；(ただし、露地栽培については発芽期から開花期を除く)。

6-(10) すもも（果樹類、核果類、小粒核果類、落葉果樹に登録のある農薬も使用可能）

病害虫名	防除方法	参考事項
黒斑病	<p>休眠期 被害枝は剪除する。</p> <p>生育期（発芽前、発芽～幼果期、9月下旬～10月） 1. 風当たりを防ぐため、防風ネットや防風垣を設置する。 2. 排水を良くする。 3. 収穫後の防除を徹底する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・モモのせん孔細菌病と同じ細菌によっておこる。 ・抗生物質剤を連用すると、耐性菌の出現する恐れがあるので注意する。 ・前年枝の病斑組織の切除は効果が高い。 ・発生しやすい園では、発芽前、収穫後の重点防除を行う。
ふくろみ病	<p>休眠期（発芽前、12月～2月中旬） 薬剤の散布時期が遅れると効果が落ちるので注意する。</p> <p>生育期（発芽後） 1. 被害枝は剪除し、被害果は除去する。 2. 発芽期から開花期にかけて、雨の多い年に発病しやすい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ソルダムは発病しやすい。
灰星病	<p>休眠期 1. 密植の解消等、薬剤到達性を高める。せん定時に枯死枝を剪除する。</p> <p>生育期（開花直前～収穫期） 1. 花腐れの多い年は防除を十分に行う。 2. 果実の腐敗病斑上に分生子を形成し、二次伝染を起こすため、発生果の処分を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・開花期、成熟期の多雨は被害を助長し、果実の感受性は成熟期に近づくにつれて高くなる。 ・ジカルボキシイミド系、DMI 剤、QoI 剤を連用すると、耐性菌の出現する恐れがあるので注意する。
コスカシバ	<p>休眠期（12～4月） 1. 食入幼虫の捕殺に努める。 2. 幼虫捕殺後の傷口には、癒合促進のため殺菌塗布剤を塗って保護する。</p> <p>生育期 1. 樹勢が衰弱すると被害を受けやすくなる。 2. 薬剤散布は秋期防除の効果が高い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・成虫は体長15mm、体と複眼は紫黒色、翅は透明で翅脈と外縁部は黒い。尾端には房状のりん毛がついている。 ・越冬は幼虫で行い、年一回発生で、5～10月に発生するが、発生盛期は8～9月である。 ・モモ、ウメ、スモモの被害樹からも飛来する。
ハダニ類	<p>生育期 ハダニ類は非常に繁殖能力が高く、気温の上昇に伴い増殖が速くなるので、発生初期からの防除を徹底する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・薬剤に対する抵抗性の出現を考慮して同一系統の薬剤使用は年1回とする。 <p>※共通病害虫防除対策の部（12）ハダニ類の防除対策を参照</p>
シンクイムシ類	<p>生育期 1. 心折れ被害枝を摘み取り処分する。 2. 被害果を処分する。 3. 幼虫が果実へ食入してからは被害防止は困難なため、殺卵やふ化直後の幼虫の食入防止を重点にした防除を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スモモヒメシンクイの第一世代による被害は5月中下旬～6月上旬頃から見られる。食害が進むと果実は落果する。越冬は幼虫で、土中に繭をつくる。 ・ナシヒメシンクイは、老熟幼虫で粗皮の割れ目や、土中などで繭をつくり越冬する。

各論作成日:2022年11月1日 必ずラベルを確認してから農薬を使用してください。

病害虫名	防除方法	参考事項
クビアカツヤ カミキリ	4月～10月 農薬散布は樹幹部にも丁寧に散布する。 5月中旬～10月下旬 食入孔からフラスが出ている場合、針金等で刺殺するか、登録農薬を食入孔に噴射する。 6月上旬～8月上旬 成虫を発見したら捕殺する。	・拡散防止対策として、羽化期（6月～8月）にフラスの見られた樹の幹にネット（目開き4mm以下）を巻き付ける。 ※共通病害虫防除対策の部(27)クビアカツヤカミキリの防除対策を参照

果樹類ーかきー殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2022/11/1

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名						
						うどんこ病	すす点病	黒点病	炭疽病	落葉病	灰色かび病	黒星病
1	アミスター10フロアブル		普	アゾキシストロビン	11	○	○	○	○	○	-	-
2	オーソサイド水和剤80		普	キャプタン	M4	-	○	-	○	○	-	-
3	オキシンドー水和剤80		普	有機銅	M1	○	-	-	○	○	-	-
4	オンリーワンフロアブル		普	テブコナゾール	3	○	-	-	○	○	○	-
5	キノンドーフロアブル		普	有機銅	M1	○	-	-	○	○	-	-
6	ゲッター水和剤		普	1.ジエトフェンカルブ 2.チオファネートメチル	10、1	-	-	-	○	○	○	-
7	サルバトーレME		普	テトラコナゾール	3	○	-	-	-	○	-	-
8	スコア顆粒水和剤		普	ジフェノコナゾール	3	○	-	-	○	○	-	-
9	ストライド顆粒水和剤		普	フルオルイミド	M11	-	○	-	○	○	-	-
10	ストロビードライフロアブル		普	クレソキシムメチル	11	○	-	-	○	○	○	-
11	デランフロアブル		劇	ジチアノン	M9	○	-	-	○	○	-	-
12	ドキリンフロアブル		普	有機銅	M1	○	-	-	○	○	-	-
13	トップジンM水和剤		普	チオファネートメチル	1	○	○	-	○	○	-	-
14	トリフミン水和剤		普	トリフルミゾール	3	○	-	○	-	-	-	-
15	トレノックスフロアブル		普	チウラム	M3	○	-	-	○	○	-	-
16	ナリアWDG		普	1.ピラクロストロビン 2.ボスカリド	11、7	○	-	-	○	○	○	-
17	パスポート顆粒水和剤		普	TPN	M5	○	-	-	○	○	-	-
18	ファンタジスタ顆粒水和剤		普	ピリベンカルブ	11	○	-	-	○	○	○	-
19	フルーツセイバー		普	ペンチオピラド	7	○	○	-	○	○	○	-
20	ベルコート水和剤		普	イミノクタジン	M7	○	○	-	○	○	○	○
21	ベンコゼブ水和剤		普	マンゼブ	M3	○	-	-	○	○	-	-
22	ベンレート水和剤		普	ベノミル	1	○	○	-	○	○	-	-
23	石灰硫黄合剤		普	石灰硫黄合剤	I:UN F:M2	○	-	-	-	-	-	○

果樹類—かき—殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2022/11/1

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名																
						アザミウマ類	カキノヘタムシガ	カメムシ類	コナカイガラムシ類	チャノキイロアザミウマ	カキクダアザミウマ	カイガラムシ類幼虫	イラガ類	カイガラムシ類	カキノヒメヨコバイ	フジコナカイガラムシ	カキノキマダラメイガ	ヒメコスカシバ	カキホソガ	イラガ		
1	アクタラ顆粒水溶剤	抑制	普	チアメトキサム	4A	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2	アグロスリン水和剤	抑制	劇	シベルメトリン	3A	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3	アディオソ乳剤	抑制	普	ベルメトリン	3A	-	○	○	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4	アドマイヤー顆粒水和剤		劇	イミダクロプリド	4A	○	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5	アブロード水和剤		普	ブプロフェジン	16	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6	アルバリン顆粒水溶剤	抑制	普	ジノテフラン	4A	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7	オリオン水和剤40		劇	アラニカルブ	1A	○	○	-	-	-	-	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-
8	オルトラン水和剤		普	アセフェート	1B	-	○	-	-	○	○	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-
9	ガットサイドS		普	MEP	1B	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	-	-	-	-
10	キラップフロアブル		普	エチプロール	2B	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
11	コテツフロアブル		劇	クロルフェナピル	13	○	○	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
12	コルト顆粒水和剤		普	ピリフルキナズン	9B	-	-	-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
13	サイアノックス水和剤		普	CYAP	1B	-	○	○	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-
14	サムコルフロアブル10	抑制	普	クロラントラニリブロール	28	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
15	ジェイエース水溶剤		普	アセフェート	1B	-	○	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
16	スタークル顆粒水溶剤	抑制	普	ジノテフラン	4A	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
17	スミチオン水和剤40		普	MEP	1B	-	○	○	-	-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-
18	スミチオン乳剤		普	MEP	1B	-	○	○	-	-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	○	-
19	ダントツ水溶剤	抑制	普	クロチアニジン	4A	○	○	○	○	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-
20	トラサイドA乳剤		普	1. MEP 2. マラソン	1B、1B	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-
21	トランスフォームフロアブル		普	スルホキサフロル	4C	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
22	パダソSG水溶剤	抑制	劇	カルタップ	14	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	○	-	○	○	-	-
23	フェニックス顆粒水和剤	抑制	普	フルベンジアミド	28	-	○	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
24	モスピラン顆粒水溶剤	抑制	劇	アセタミプリド	4A	○	○	○	-	-	-	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-
25	モベントフロアブル		普	スピロテトラマト	23	○	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-

* かきにおけるアドマイヤー顆粒水和剤の使用時期は、ただし書きに注意；(ただし、露地栽培については発芽期から開花期を除く)。

6-(11) かき（果樹類、落葉果樹に登録のある農薬も使用可能）

病害虫名	防除方法	参考事項
炭疽病	休眠期 1. 被害落葉は園外に持ち出して処分する。 2. 罹病枝を切り取り適切に処分する。 生育期 1. 適切な肥培管理と新梢管理を行い、風通しに留意する。 2. 防除時期は5月下旬～9月中旬である。	<ul style="list-style-type: none"> ・伝染源は罹病枝で越冬し、5～6月の降雨が新梢や幼果の発病を助長する。 ・果実への被害は、着色の始まる8月下旬～9月が発生盛期となる。 ・ベンズイミダゾール系、QoI 剤の薬剤を連用すると、耐性菌の出現する恐れがあるので注意する。
落葉病	休眠期 被害落葉は集めて園外に持ち出して処分する。 生育期 防除時期は、主要感染期である6月～7月（梅雨明けまで）である。	<ul style="list-style-type: none"> ・発生期 角斑落葉病は7月頃から落葉期まで発病する。 円星落葉病は9月中下旬に急増する。 ・角斑落葉病は樹勢の弱い樹や老木に発病しやすい。 ・ベンズイミダゾール系、DMI 剤の薬剤を連用すると、耐性菌の出現する恐れがあるので注意する。
カキノヘタムシガ（カキミガ）	休眠期 粗皮削りを行う。 生育期 防除適期は幼虫が芽の先端を食害している時期（6月中旬～7月上旬、8月上旬～9月上旬）である。	
カキクダアザミウマ	休眠期 粗皮削りを行う。 生育期 防除時期は展葉期～幼果期である。	
カメムシ類	生育期 1. カメムシ類は成虫で越冬し、4月以降越冬成虫が餌となる植物へ飛来する。 2. 第1世代成虫は7月から出現し、県内では年に1世代の発生である。 3. 夜行性であるため、活動の鈍い早朝での防除が効果的である。 4. 上記の習性を把握し、6～9月の薬剤防除に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・主な繁殖植物はスギ、ヒノキで、その球果の豊凶が、カメムシ類の発生量や果樹の被害量に大きく影響する。 ・当年のスギ、ヒノキの球果が豊作の場合は、当年は餌が豊富なことから、園への飛来は少ない傾向にある。一方で当年から翌年にかけて越冬量が多くなり、翌年の春～7月頃にかけて園への飛来量は増加傾向となる。

果樹類－くり－殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2022/11/1

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名	
						胴枯病	実炭疽病
1	トップジンM水和剤		普	チオファネートメチル	1	-	○
2	トップジンMペースト		普	チオファネートメチル	1	○	-
3	ベルコートフロアブル		普	イミノクタジン	M7	-	○
4	ベンレート水和剤		普	ベノミル	1	-	○

果樹類－くり－殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2022/11/1

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名								
						クリタマバチ	クリシギゾウムシ	アブラムシ類	クリイガアブラムシ	カツラマルカイガラムシ若齢幼虫	モモノゴマダラノメイガ	キクイムシ類	ネスジキノカワガ	カミキリムシ類
1	アグロスリン水和剤	抑制	劇	シペルメトリン	3A	○	○	-	-	-	-	-	-	-
2	アディオン乳剤	抑制	普	ペルメトリン	3A	○	○	-	-	-	-	-	-	-
3	アドマイヤー水和剤		劇	イミダクロプリド	4A	-	-	○	-	-	-	-	-	-
4	エルサン乳剤		劇	PAP	1B	-	-	-	○	○	○	-	-	-
5	ガットサイドS		普	MEP	1B	-	-	-	-	-	○	-	-	-
6	スミチオン水和剤40		普	MEP	1B	○	-	-	-	-	○	-	-	-
7	トクチオン乳剤		普	プロチオホス	1B	-	-	-	-	-	○	-	○	-
8	トラサイドA乳剤		普	1. MEP 2. マラソン	1B、1B	○	-	-	-	-	-	-	-	○
9	パダンSG水溶剤	抑制	劇	カルタップ	14	-	-	-	-	-	○	-	○	-
10	フェニックスフロアブル	抑制	普	フルベンジアミド	28	-	-	-	-	-	○	-	-	-
11	マブリック水和剤20	抑制	劇	フルバリネート	3A	○	○	-	○	-	-	-	-	-

* くりにおけるアドマイヤー水和剤の使用時期は、ただし書きに注意；(ただし、露地栽培については発芽期から開花期を除く)。

6-(12) くり (果樹類、落葉果樹に登録のある農薬も使用可能)

病害虫名	防除方法	参考事項
実炭疽病	休眠期 枯れ枝に病原菌が潜伏して伝染源となるため、間伐と剪定により通風、採光を良好にして枯れ枝防止を図る。 開花期～裂果前（果実肥大期） 穂果肥大期から成熟期（7～8月）に十分防除を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・品種によって発病程度が異なるので、罹病性品種を更新する。
胴枯病	<ol style="list-style-type: none"> 1. 早期発見につとめ、被害部は削り取り、切り口に塗布剤を塗布する。 2. 被害枯死樹、被害枝は処分する。 3. 適切な施肥、剪定により樹勢を強く維持する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・病患部の早期発見、早期除去に努め、園内環境を良好に保つ。 ・樹勢の健全維持に努める。
モモノゴマダ ラノメイガ	生育期 <ol style="list-style-type: none"> 1. 発生時期である8月～9月に薬剤散布を行う。 2. バンド誘殺の実施 8月下旬に主幹部に紙又は布を巻き付けて越冬させ、冬季に外して処分する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第2世代（8月）の防除を重点に行う。 ・スミチオン水和剤40は新梢伸長期、極早生品種や樹勢の弱い樹には使用しない。
クスサン	休眠期 卵塊を集めて処分する。 5月 ふ化幼虫の早期発見に努め、見つけしだい捕殺する。	<ul style="list-style-type: none"> ・樹幹、太枝の分岐部に産卵する。
クリタマバチ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 抵抗性品種を栽培する。 2. 適切な施肥、剪定により樹勢を強く維持する。 3. 弱小枝の切除に努める 生育期 羽化初期の6月下旬から7月に十分防除を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・スミチオン水和剤40は新梢伸長期、極早生品種や樹勢の弱い樹には使用しない。
クリイガ ブラムシ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 雌花に成虫が定着して産卵するため、6月下旬までに薬剤散布を行う。 2. 空イガや落果した被害果は早めに埋没するか園外に持ち出す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・密植園、通風の悪い園は発生が多い。 ・未熟の穂果に寄生すると未熟果で裂開（若ハゼ）の原因となる。
クリシギゾウムシ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 晩生種では収穫期には幼虫が大きく発育しているため、収穫直前の8月下旬から9月に十分防除を行う。 2. 被害果は早めに埋没するか園外に持ち出す。 3. 11月にロータリー耕を行うと密度低下につながる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・成虫は8月から発生し、9月が最盛期となる。

果樹類－核果類－おうとう－殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2022/11/1

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病虫害雑草名							
						灰星病	褐色せん孔病	樹脂細菌病	せん孔病	炭疽病	幼果菌核病	白紋羽病	黒斑病
1	ICボルドー66D		普	銅	M1	○	○	○	-	-	-	-	-
2	Zボルドー		普	銅	M1	-	○	-	-	-	-	-	-
3	アミスター10フロアブル		普	アゾキシストロビン	11	○	○	-	-	○	-	-	-
4	アンビルフロアブル		普	ヘキサコナゾール	3	○	-	-	-	-	-	-	-
5	インダーフロアブル		普	フェンブコナゾール	3	○	-	-	-	-	○	-	-
6	オーシャインフロアブル		普	オキシボコナゾール フルマル酸塩	3	○	○	-	-	-	○	-	-
7	オーシャイン水和剤		普	オキシボコナゾール フルマル酸塩	3	○	○	-	-	-	○	-	-
8	オーソサイド水和剤80		普	キャプタン	M4	○	○	-	-	○	-	-	-
9	オキシラン水和剤		普	1. キャプタン 2. 有機銅	M4、M1	-	-	-	○	-	-	-	-
10	オンリーワンフロアブル		普	テブコナゾール	3	○	○	-	-	○	-	-	○
11	キャブレート水和剤		普	1. キャプタン 2. ベノミル	M4、1	○	-	-	-	○	-	-	-
12	スコア顆粒水和剤		普	ジフェノコナゾール	3	○	-	-	-	-	-	-	-
13	チオノックフロアブル		普	チウラム	M3	○	○	-	-	○	○	-	-
14	デランフロアブル		劇	ジチアノン	M9	-	○	-	-	-	-	-	-
15	ドキリンフロアブル		普	有機銅	M1	-	-	-	○	-	-	-	-
16	トップジンM水和剤		普	チオファネートメチル	1	○	-	-	○	-	○	-	-
17	トレノックスフロアブル		普	チウラム	M3	○	○	-	-	○	○	-	-
18	ナリアWDG		普	1.ピラクlostロビン 2.ボスカリド	11、7	○	○	-	-	○	○	-	○
19	パスワード顆粒水和剤		普	フェンヘキサミド	17	○	-	-	-	-	○	-	-
20	ファンタジスタ顆粒水和剤		普	ピリベンカルブ	11	○	○	-	-	-	○	-	○
21	フルーツセイバー		普	ペンチオピラド	7	○	○	-	-	○	○	-	-
22	フロンサイドSC		普	フルアジナム	29	-	-	-	-	-	-	○	-
23	ベルコートフロアブル		普	イミノクタジン	M7	○	-	-	-	-	-	-	-
24	ロブラール500アクア		普	イプロジオン	2	○	-	-	-	-	-	-	-

果樹類－核果類－おうとう－殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2022/11/1

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名													
						ウメシロカイガラムシ	シヨウジョウバエ	カイガラムシ類幼虫	ケムシ類	ハダニ類	ナミハダニ	ハマキムシ類	オウトウシヨウジョウバエ	コスカシバ	シヨウジョウバエ類	カイガラムシ類	カメムシ類	アブラムシ類	クビアカツヤカミキリ
1	アカリタッチ乳剤		普	プロピレングリコールモノ脂肪酸エステル		-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2	アタックオイル		普	マシン油		○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3	アディオンフロアブル	抑制	普	ペルメトリン	3A	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4	アブロードフロアブル		普	ブプロフェジン	16	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5	アルバリン顆粒水溶剤	抑制	普	ジノテフラン	4A	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-	-	-
6	エクシレルSE	抑制	普	シアントラニプロール	28	-	-	-	○	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-
7	エコマイト顆粒水和剤		普	スピロジクロフェン	23	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-
8	オマイト水和剤		普	BPPS	12C	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
9	カネマイトフロアブル		普	アセキノシル	20B	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
10	コルト顆粒水和剤		普	ピリフルキナゾンj	9B	-	-	-	-	-	-	○	-	-	○	-	-	-	-
11	コロマイト乳剤	抑制	普	ミルベメクチン	6	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
12	サイアノックス水和剤		普	CYAP	1B	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
13	サムコルフロアブル10	抑制	普	クロラントラニプロール	28	-	-	-	○	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-
14	スカウトフロアブル	抑制	劇	トラロメトリン	3A	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-
15	スタークル顆粒水溶剤	抑制	普	ジノテフラン	4A	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-	-	-
16	スターマイトフロアブル		普	シエノピラフェン	25A	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
17	スミチオン水和剤40		普	MEP	1B	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
18	ダイアジノン水和剤34		劇	ダイアジノン	1B	○	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	○	-
19	ダニオーテフロアブル		普	アシノナピル	33	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20	ダニゲッターフロアブル		普	スピロメシフェン	23	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
21	ダニコングフロアブル		普	ピフルブミド	25B	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
22	ダニサラパフロアブル		普	シフルメトフェン	25A	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
23	ダントツ水溶剤	抑制	普	クロチアニジン	4A	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-	-	-
24	ディアナWDG		普	スピネトラム	5	-	-	-	-	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-
25	テッパン液剤	抑制	普	シクラニプロール	28	-	-	-	-	-	-	○	○	○	-	-	○	-	○

果樹類－核果類－おうとう－殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2022/11/1

農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名													
					ウメシロカイガラムシ	シヨウジョウバエ	カイガラムシ類幼虫	ケムシ類	ハダニ類	ナミハダニ	ハマキムシ類	オウトウシヨウジョウバエ	コスカシバ	シヨウジョウバエ類	カイガラムシ類	カメムシ類	アブラムシ類	クビアカツヤカミキリ
26 テルスターフロアブル	抑制	劇	ピフェントリン	3A	-	-	-	-	○	-	-	-	-	○	-	○	-	-
27 トラサイドA乳剤		普	1. MEP 2. マラソン	1B、1B	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-
28 ニッソラン水和剤		普	ヘキシチアゾクス	10A	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
29 ハーベストオイル		普	マシン油		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-
30 バロックフロアブル	抑制	普	エトキサゾール	10B	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
31 フェニックスフロアブル		普	フルベンジアミド	28	-	-	-	○	-	-	○	-	○	-	-	-	-	-
32 マイトコーネフロアブル		普	ピフェナゼート	20D	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
33 モスピラン顆粒水溶剤	抑制	劇	アセタミプリド	4A	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	○	○	-	○
34 モベントフロアブル		普	スピロテトラマト	23	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	○	-	-	-
35 ラビキラー乳剤		劇	1. MEP 2. PAP	1B、1B	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-

6-(13) おうとう（果樹類、核果類、落葉果樹に登録のある農薬も使用可能）

病害虫名	防除方法	参考事項
灰星病	休眠期 全面を耕うんして越冬源をすき込むとともに、地表面の乾燥を図る。 開花直前～収穫期 被害果は見つけ次第、土中に埋める。	<ul style="list-style-type: none"> ・ベンズイミダゾール系、ジカルボキシイミド系、DMI 剤、QoI 剤の薬剤を連用すると、耐性菌の出現する恐れがあるので注意する。 ・伝染源になる胞子の形成は、多湿条件下で良好になり、開花期や収穫期に降雨が多いと多発する。
せん孔病	発芽前 被害葉が伝染源になるので、発病園では発芽前に落葉の処分を行う。 生育期～落葉期 初期防除に努め、収穫後には落葉期まで防除を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・葉のみに発病する。 ・ベンズイミダゾール系の薬剤を連用すると、耐性菌の出現する恐れがあるので注意する。
幼果菌核病	4～5月 発病は新葉、幼果にみられ、開花期前後が防除時期となる。	<ul style="list-style-type: none"> ・低温が続き、発芽から開花までの期間が長くなるような気象条件下では、開花前の防除回数を増やす。
炭疽病	休眠期 伝染源となる枯死した花束状短果枝や不発芽を除去する。 生育期 開花期から成熟期にかけた防除を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・発病は果実、葉、芽でみられる。 ・分生子は降雨時に飛散し、開花期及び収穫時期（6月）に多い。 ・DMI 剤、QoI 剤の薬剤を連用すると、耐性菌の出現する恐れがあるので注意する。
樹脂細菌病	休眠期 感染時期の冬季に枝幹（樹脂の漏出部）に十分散布する。 生育期 病斑部を削り取り、殺菌塗布剤を塗って保護する。	<ul style="list-style-type: none"> ・主に冬季に感染する。 ・風当たりの強い園や強樹勢の樹で発生が多い。 ・病気の進行にともない、病斑より上の枝が枯死する。
コスカシバ	発芽後 食入幼虫の捕殺に努める。 生育期 5～9月の他害虫防除時に樹幹部にも丁寧に散布する。 収穫後 秋期に樹幹部の低い部分に十分に薬剤散布する。	<ul style="list-style-type: none"> ・幼虫捕殺後の傷口には、癒合促進のため殺菌塗布剤を塗って保護する。 ・成虫の発生盛期は8～9月である。 ・樹勢が衰弱すると被害を受けやすくなる。 ・薬剤散布は秋期防除の効果が高い。
ハダニ類	5～9月 ハダニ類は非常に繁殖能力が高く、短期間で多発してしまうため、ほ場をよく観察し1葉あたり2頭以上の寄生を認めた場合は速やかに防除する。	<ul style="list-style-type: none"> ・薬剤に対する抵抗性の出現を考慮して同一系統の薬剤使用は年1回とする。 <p>※共通病害虫防除対策の部（12）ハダニ類の防除対策を参照</p>
ショウジョウバエ類	6～7月 適期収穫に努め、被害果やウルミ果等の取り残し果実は直ちに処分する。	<ul style="list-style-type: none"> ・オウトウ果実への産卵は、完熟直前から収穫期に多く、晩生種で被害が多い。 ・果肉内で産卵後1～3日でふ化し、果肉を食害後脱出して蛹になる。

果樹類－キウイフルーツ－殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2021/11/1

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名					
						かいよう病	花腐細菌病	果実軟腐病	灰色かび病	貯蔵病害(灰色かび病)	白紋羽病
1	ICボルドー66D		普	銅	M1	○	-	-	-	-	-
2	アグリマイシン100		普	1.オキシテトラサイクリン 2.ストレプトマイシン	41、25	○	○	-	-	-	-
3	アグレプト水和剤		普	ストレプトマイシン	25	○	○	-	-	-	-
4	アリエッティ水和剤		普	ホセチル	P7	-	-	○	-	-	-
5	カスミンボルドー		普	1.カスガマイシン 2.銅	24、M1	○	○	-	-	-	-
6	カスミン液剤		普	カスガマイシン	24	○	○	-	-	-	-
7	ストロビードライフロアブル		普	クレソキシムメチル	11	-	-	-	○	○	-
8	ダコニール1000		普	TPN	M5	-	-	○	-	-	-
9	トップジンM水和剤		普	チオファネートメチル	1	-	-	○	-	-	-
10	フロンサイドSC		普	フルアジナム	29	-	-	○	○	-	○
11	ベルコート水和剤		普	イミノクタジン	M7	-	-	○	○	○	-
12	ベンレート水和剤		普	ベノミル	1	-	-	○	-	-	-
13	ロブラール水和剤		普	イプロジオン	2	-	-	○	○	○	-

果樹類－キウイフルーツ(苗木)－殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2021/11/1

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名
						白紋羽病
1	フロンサイドSC		普	フルアジナム	29	○

果樹類ーキウイフルーツー殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2021/11/1

	農薬の名称	群馬県 指定	製剤 毒性	有効成分の種類	作用機構 分類	病害虫雑草名					
						キ イ ロ マ イ コ ガ	カ メ ム シ 類	キ ウ イ ヒ メ ヨ コ バ イ	カ イ ガ ラ ム シ 類	カ イ ガ ラ ム シ 類 幼 虫	ク ワ シ ロ カ イ ガ ラ ム シ
1	アグロスリン乳剤	抑制	劇	シペルメトリン	3A	○	○	○	-	-	-
2	アディオン乳剤	抑制	普	ペルメトリン	3A	○	○	-	-	-	-
3	アドマイヤーフロアブル		劇	イミダクロプリド	4A	-	○	-	-	-	-
4	アブロードエースフロアブル		普	1.フェンピロキシメート 2.ブプロフェジン	21A、16	-	-	○	○	-	-
5	アブロード水和剤		普	ブプロフェジン	16	-	-	○	-	○	-
6	アルバリン顆粒水溶剤	抑制	劇	ジノテフラン	4A	-	○	-	-	-	-
7	コテツフロアブル		劇	クロルフェナピル	13	-	-	○	-	-	-
8	コルト顆粒水和剤		普	ピリフルキナゾン	9B	-	-	-	-	-	○
9	スカウトフロアブル	抑制	劇	トラロメトリン	3A	○	-	-	-	-	-
10	スタークル顆粒水溶剤	抑制	劇	ジノテフラン	4A	-	○	-	-	-	-
11	トランスフォームフロアブル		普	スルホキサフロル	4C	-	-	-	○	-	-
12	パダンSG水溶剤	抑制	劇	カルタップ	14	○	-	○	-	-	-
13	モスピラン顆粒水溶剤	抑制	劇	アセタミプリド	4A	-	-	○	○	-	-

* キウイフルーツにおけるアドマイヤーフロアブルの使用時期は、ただし書きに注意；(ただし、露地栽培については発芽期から開花期を除く)。

6-(14) キウイフルーツ（果樹類、落葉果樹に登録のある農薬も使用可能）

病害虫名	防除方法	参考事項
果実軟腐病	休眠期 枯枝、果梗を除去し処分する。 生育期（幼果期まで、幼果期～果実肥大期） 過繁茂を避け、摘心や誘引で棚面を明るく管理する。	<ul style="list-style-type: none"> ベンズイミダゾール系、ジカルボキシイミド系の薬剤を連用すると、耐性菌の出現する恐れがあるので注意する。
花腐細菌病	休眠期～叢生期（新梢長約10cm） 開花一ヶ月前に主幹部に幅5mm程度の環状剥皮を行うと発病が少なくなる。 生育期（落花期まで、4～7月） 1. 過繁茂を避け、摘心や誘引で棚面を明るく管理する。 2. 肥料の過用を避け、樹勢の安定を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 抗生物質剤を連用すると、耐性菌の出現する恐れがあるので注意する。 カスミンボルドーを発芽期以降に散布する際は、葉害軽減のためクレフノンを加用する。
灰色かび病	生育期 1. 園内の通風、排水を良くする。 2. 防除時期は落花期（5月下旬～6月上旬）と収穫前である。	<ul style="list-style-type: none"> イプロジオン剤散布の際には、展着剤を使用し、果実全体に薬液がかかるようにする。 貯蔵中の発病をふせぐため、傷果やぬれ果は収穫しない。 貯蔵中の腐敗は被害が大きくなるので、貯蔵中に発病した果実は早急に除去する。
かいはよう病	休眠期 風などによる傷から感染しやすいので、防風垣や防風ネットを設置し、剪定後の切り口には癒合促進剤を塗布する。 生育期 防除時期は発芽前、4～7月、収穫後～落葉前である。	<ul style="list-style-type: none"> 発病樹を切ったノコギリ、剪定鋏から感染する恐れがあるので、用具の消毒を行う。 抗生物質剤を連用すると、耐性菌の出現する恐れがあるので注意する。 カスミン液剤を樹幹注入する場合は、葉害を生じる場合があるので使用上の注意をよく見た上で行う。 カスミンボルドーを発芽期以降に散布する際は、葉害軽減のためクレフノンを加用する。
炭疽病	休眠期 風などによる傷から感染しやすいので、防風垣や防風ネットを設置する。 生育期 発病した葉や枯枝は伝染源となるので、集めて処分する。	<ul style="list-style-type: none"> 6月頃の成葉に発病し、大型の病斑となり落葉する。
枝枯病	夏期の強剪定、着果過多、樹勢低下樹に発生が多いので、適正な樹勢を維持する。	<ul style="list-style-type: none"> 日焼けや降雹などで生じた傷口や、剪定後の切り口から感染しやすいため、剪定後の切り口には癒合促進剤を塗布する。原因菌として、果実軟腐病と同じホモプシス菌が報告されている。
カイガラムシ類	休眠期（12～1月） 1. 寄生された枝は、剪定時に取り除く。 2. 発芽前に登録のある殺虫剤を散布する。 生育期（6～7月） 幼虫の発生を確認し、登録のある殺虫剤を散布する。	<ul style="list-style-type: none"> 生育期の薬剤防除は、幼虫が介殻（皮膜物質）で覆われると効果が低いため、介殻を形成する前に行う。

6-(15) ブルーベリー

(果樹類、ベリー類等の小粒果実類、ベリー類、落葉果樹に登録のある農薬も使用可能)

病害虫名	防除方法	参考事項
灰色カビ病	<ol style="list-style-type: none"> 罹病花や罹病果実が二次感染源となるため、早期に摘み取り、処分する。 開花期前に登録のある殺菌剤を散布する。 	<ul style="list-style-type: none"> 花や幼果に感染し、花腐れ症状や果実の褐変を生じる。開花期前後の天候不順により発生が助長される。
根腐疫病	<ol style="list-style-type: none"> 感染した苗を園地へ持ち込まない。 土壤水分が高い条件で発生が助長されるため、排水不良園では排水対策を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 葉が黄化または赤褐変し、新梢の伸長や根張りが不良となり、症状が進行すると枯死する。
オウトウシヨウジョウバエ	<ol style="list-style-type: none"> 適熟果は全て収穫し、取り残さない。 落下果実や腐敗果実は、園外へ持ち出し処理する。 被害の多発する園では、園内密度が高くなる前に、7～10日間隔で登録のある殺虫剤を散布する。 	<ul style="list-style-type: none"> 雌成虫は熟した果実へ産卵し、産卵後1～3日で白いウジ状の幼虫が孵化する。 被害果や取り残した果実、落下果実がある場合、それが増殖源となり園内密度が高くなる。
カイガラムシ類	<ol style="list-style-type: none"> 寄生された枝は剪定時に取り除く。 発芽前に、登録のある殺虫剤を散布する。 	<ul style="list-style-type: none"> 主に枝や新梢に寄生し、樹液を吸汁する。被害が拡大すると、樹勢低下や枝の枯死の原因となる。
ブルーベリートアマバエ	<ol style="list-style-type: none"> 被害苗を栽培ほ場へ持ち込まない。 蛹は土中で越冬するため、被害ほ場の土を栽培ほ場へ持ち込まない。 寄生部位を摘み取り、袋に入れ密封し死滅させる。 新梢伸長期に登録のある殺虫剤を散布する。 	<ul style="list-style-type: none"> 幼虫が新梢先端の未展開葉を食害する。 被害を受けた未展開葉は黒変後に枯死し、側芽が伸長する。 幼虫は白～黄色のウジ状で、体長約2mm程度であり、蛹は土中で越冬する。 施設栽培では被害が大きくなりやすい。 新梢伸長期(4月から9月頃まで)に発生が見られるが、年次やほ場により発生のピークは異なる。

果樹類ーいちじくー殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2022/11/1

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名						
						株枯病	疫病	さび病	そうか病	黒葉枯病	黒かび病	白紋羽病
1	ICボルドー66D		普	銅	M1	○	-	-	-	-	-	-
2	Zボルドー		普	銅	M1	-	○	-	-	-	-	-
3	アミスター10フロアブル		普	アゾキシストロピン	11	-	○	○	○	○	-	-
4	アンビルフロアブル		普	ヘキサコナゾール	3	-	-	○	-	-	-	-
5	オンリーワンフロアブル		普	テブコナゾール	3	○	-	-	-	-	-	-
6	キノンドーフロアブル		普	有機銅	M1	-	-	-	○	-	-	-
7	コサイド3000		普	銅	M1	-	○	-	-	-	-	-
8	ダコニール1000		普	TPN	M5	-	○	○	-	○	○	-
9	デランフロアブル		劇	ジチアノン	M9	-	-	-	○	-	-	-
10	トップジンMオイルペースト		普	チオファネートメチル	1	○	-	-	-	-	-	-
11	トップジンM水和剤		普	チオファネートメチル	1	○	-	-	○	○	○	-
12	トリフミン水和剤		普	トリフルミゾール	3	○	-	○	○	-	-	-
13	フロンサイドSC		普	フルアジナム	29	-	-	-	-	-	-	○
14	ベンレート水和剤		普	ベノミル	1	○	-	-	-	-	-	-
15	ライメイフロアブル		普	アミスルブロム	21	-	○	-	-	-	-	-
16	ラリー水和剤		普	ミクロブタニル	3	-	-	○	-	-	-	-
17	ランマンフロアブル		普	シアゾファミド	21	-	○	-	-	-	-	-
18	レーパスフロアブル		普	マンジプロパミド	40	-	○	-	-	-	-	-
19	ロブラール500アクア		普	イプロジオン	2	-	-	-	-	-	○	-

6-(16) いちじく（果樹類、落葉果樹に登録のある農薬も使用可能）

病害虫名	防除方法	参考事項
株 枯 病	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保菌した挿し穂や苗木が主要な伝染源となるので、挿し穂の採種や苗木の育成は未発病地で行う。また、抵抗性台木を活用する。 2. 発病株は早期に園地から持ち出し処分する。 3. 土壌感染を防ぐために、発病樹周辺の健全樹に対して、登録殺菌剤を感染時期の5～10月に毎月1回株元灌注する。ただし、罹病樹には効果がない。 4. 発病園地で改植する場合は、汚染表土を取り除き無病土を客土するか、土壌消毒を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地温25～30℃で発病が多い。 ・落葉などの症状は高温乾燥時に多い。 ・農薬有効成分の総使用回数に注意する。 ・オンリーワンフロアブル、ICボルドー66Dは、葉害の恐れがあるため定植1年目までの幼木には使用しない。 ・株枯病菌は地表から地下15cmまでに多く、罹病樹の株元でも地下30cm程度までの深さに分布する。
疫 病	<p>生育期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 6月中旬～7月上旬、8月下旬～9月上旬頃に降雨程度を考慮して登録薬剤を散布する。特に降雨後の散布が重要である。 2. 発病果は伝染源となるため、園内に放置せず持ち出して処分する。 3. 土壌から水滴の跳ね返りによる伝染を防ぐため、マルチ資材や敷きわらを行う。 4. 排水不良園では排水溝を設けて排水する。 5. 密植園では間伐や縮伐によって、園内湿度や採光条件を改善する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・梅雨期間中は新梢や葉に発生し、苗木や幼木で激発した場合は枯死することもある。 ・収穫期に20～30℃の温度条件と多湿条件が重なると発生が助長される。 ・強樹勢樹では果実の開口部が裂果しやすく、発生が多くなる。 ・柵井ドーフインで発病しやすい。
さ び 病	<p>休眠期 被害葉は翌年の伝染源となるので集めて処分する。</p> <p>生育期 発病が認められたら登録薬剤を散布する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・発病適温は25～30℃で、風で二次感染する。
カミキリムシ類（キボシカミキリ・クワカミキリ）	<p>休眠期 塗布殺虫剤を塗布する。</p> <p>生育期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 成虫は見つけ次第捕殺し、登録薬剤を散布する。 2. 幼虫の食入孔が認められた場合は、食入孔から針金を差し込んで刺殺するか、噴射剤のノズルを差し込み、薬剤が食入孔から逆流してくるまで噴射する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・キボシカミキリは主に主幹・主枝に産卵する。 ・クワカミキリは主に新梢基部に産卵し、しばしば産卵部位から折損する。 ・樹勢の低下した樹や、日焼け・凍害を受けた樹は加害されやすい。
アザミウマ類	<p>生育期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 6月中旬～7月中旬に登録薬剤を散布する。 2. 成虫侵入前の6月上旬までに光反射シートを設置する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外観からは加害が分からず、防除が難しい害虫である。 ・3月下旬から各種の雑草、花などで繁殖する。 ・果頂部が開く6月中旬以降に侵入する。 ・園地周辺及び園地内の雑草は定期的に除草・除去し、アザミウマ類の侵入を抑える。